

献 辞

経営学部長 村 上 宏 之

倉田三郎先生は、平成13年3月に定年を待たずに松山大学をご退職され、同年4月から新設の市立尾道大学の経済情報学部長にご就任されました。

先生は、昭和39年3月に神戸大学大学院経営学研究科修士課程を修了されたのち、ただちに同年4月に松山商科大学（当時）経営学部に助手として赴任され、専任講師、助教授を経て、昭和51年4月に教授に任じられています。先生はご退職までの37年間にわたりご研究はもちろんのこと、本学学生・大学院生の教育にも熱心に携わられてこれ、先生のご薫陶を受けた卒業生・修了生の中には各界の中心的リーダーとしてご活躍されている方も多くいらっしゃると思います。

先生のご専門は、「資金会計論」（「キャッシュ・フロー会計論」）です。キャッシュ・フロー計算書は現在でこそ貸借対照表、損益計算書に次ぐ第3の財務諸表として制度化されていますが、先生は早くも昭和30年代末にその重要性を説かれており、先見の明には感服する次第です。また、巻末の研究業績目録から窺えますように、先生のご研究領域は「資金会計論」にとどまらず、簿記、会計学全般にわたっています。先生には、学部専門科目として「資金会計論」、「経営分析」のほか「簿記原理」、「会計学通論」、「財務会計論」など、大学院科目として「資金会計論特講」などをご担当いただきました。

先生は、研究室でのデスクワークはもちろんのこと、フィールドワークも重視され、絶えず社会の動向に目を向けられていました。

ご在職中、先生は、平成2年4月から平成4年3月まで経営学部長として、平成4年4月から平成8年3月まで大学院経営学研究科長として、経営学部および経営学研究科の発展に寄与されました。さらに、平成3年9月から平成

10年11月まで学校法人松山大学評議員，平成7年12月から平成9年4月まで学校法人松山大学理事にご就任され，法人の発展にも貢献されました。また，平成10年1月から平成12年12月まで図書館長にも就かれ，研究・教育上のご業績はもとより，数々の役職においても，松山大学の発展に大きな足跡を印されました。学外にあっては，学会関係として平成10年12月に本学で開催された日本会計研究学会第48回関西西部会の大会委員長を務められたほか，愛媛県などの各種審議会・委員会の委員などを歴任されており，この面でのご功績も顕著です。

倉田先生，長い間本当に有り難うございました。これからも私たち若輩者へのご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたしますとともに，先生の今後益々のご活躍ご健勝を祈念して献辞といたします。